

JETRO

Bangladesh のデジタル人材調査報告

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部

2024年3月

KUET

ITで有名なクルナ工科大学（ジェトロ撮影）

目次

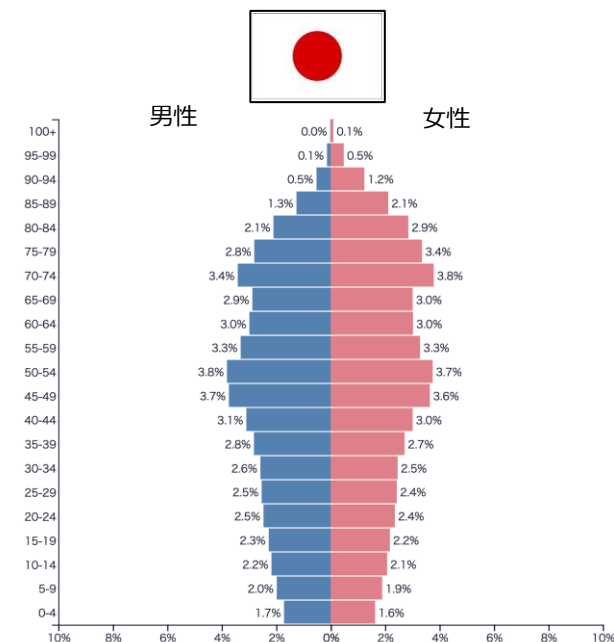
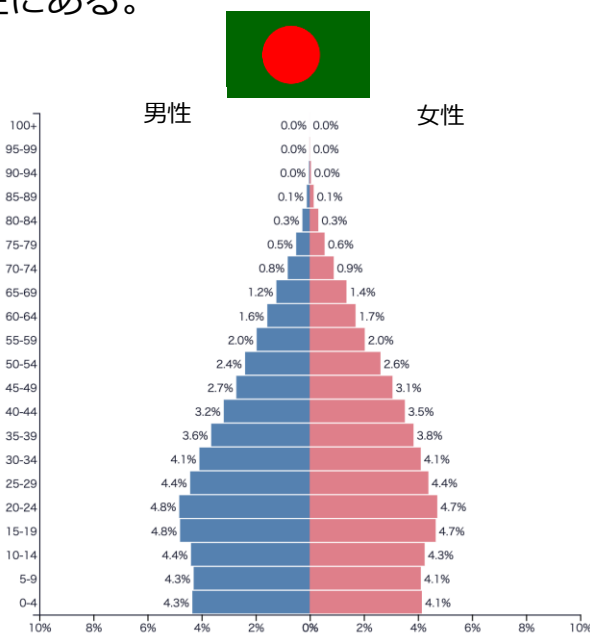
I.	調査の背景・目的・手法	3
II.	BangladeshのIT産業の概観	8
III.	Bangladeshのデジタル人材の概要	15
IV.	Bangladeshの大学教育とキャリア	22
V.	日本・海外での就労・就職	31
VI.	Bangladeshと日本との関係	40
VII.	考察とまとめ	49
VIII.	参考文献	52

JETRO

I. 調査の背景・目的・手法

1 | 調査の背景

- 日本は世界の人材の国際競争力（IMD世界人材ランキング）にて2023年時点で、64カ国中43位と低下傾向にある。また、出生数・若年人口の低下に伴い、生産年齢人口の長期的な減少は確実であり、海外からの高度人材の呼び込みが急務である。
- 南西アジアは、延べ人口が20億人おり、平均年齢も低く労働人口が豊富な地域である。インドを中心に毎年150万人以上の理系人材を輩出する一方、欧米志向や高騰する給与水準により、日本での採用は進んでいない。
- バングラデシュは人口の約25%が14歳以下であり、少子高齢化の進む日本と相互補完しうる関係性にある。



(出所) PopulationPyramid.net (2023)

2 | 調査の目的

- インドの東側に位置するバングラデシュは、親日国であり、民間・政府プロジェクトにおいてデジタル人材の育成・日本への就職支援も行うなど、歴史的にも関係が深い。
- 本調査は、バングラデシュに焦点を当て、同国のIT産業やデジタル人材の概要や強み・弱み、日本での就労意欲、日本のIT企業に期待することや就職の課題等にかかる情報を収集し、日本の企業による同国のデジタル人材の活用促進に繋げることを目的として実施した。

(注)

- ・ 本調査では「企業などに所属しデジタル技術を活用して競争力を向上させる人材」をデジタル人材と表現した。
- ・ 本調査の中で「デジタル技術」を意味する言葉として「IT（情報技術）」と「ICT（情報通信技術）」という2種類の言葉が出てくるが、基本的には同じ意味を持つ言葉として引用元の表現を優先する形で表している。
- ・ 本調査の中で参考文献を明記していない箇所は、インタビュー調査による聞き取り事項である。

3 | 調査の概要

- 調査実施時期：2023年12月～2024年1月
- 調査委託先：BacBon Limited
- 調査手法：

調査項目	調査手法			
	文献調査	デジタル人材 インタビュー	IT企業 インタビュー	教育・ 政府関係者 インタビュー
I. 調査の背景・目的・手法	-	-	-	-
II. バングラデシュのIT産業の概要	✓	-	✓	✓
III. バングラデシュのデジタル人材の概要	✓	✓	✓	✓
IV. バングラデシュの大学教育とキャリア	✓	✓	✓	✓
V. 日本・海外での就労・就職	✓	✓	✓	✓
VI. バングラデシュと日本の関係	✓	-	-	✓

3 | 調査の概要（続き）

調査手法	情報源・サンプル数
文献調査	「Ⅷ. 参考文献」参照
在 Bangladesh のデジタル人材へのインタビュー	10名
在日のデジタル人材へのインタビュー	8名
法人インタビュー（IT企業）	10社
法人インタビュー（教育機関）	2機関
政府プロジェクト関係者	2名

- 文献調査の情報源（詳細は「Ⅷ. 参考文献」参照）
 - 研究論文
 - 政府レポート
 - 国際開発機関レポート
 - ニュース記事
- インタビュー方法
 - 半構造化インタビュー
 - 個人インタビューとグループインタビューを併用
 - 対象者抽出方法は、調査実施者およびJETROのネットワークによる選定をもとに、そこから関係者を紹介してもらうスノーボールサンプリング

JETRO

II. バングラデシュのIT産業の概観

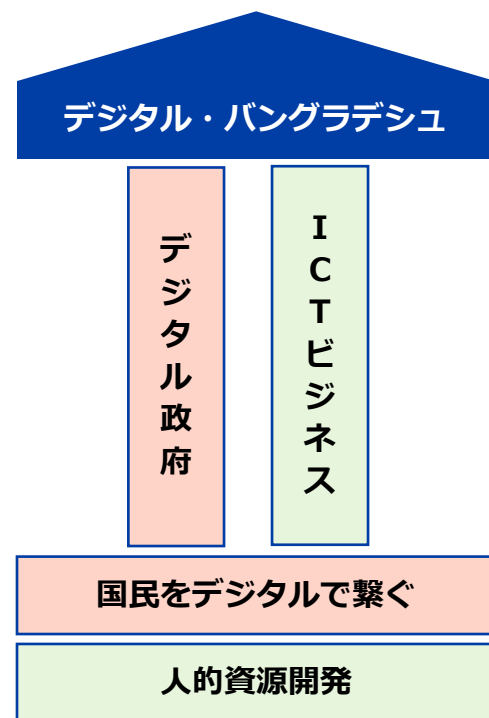
1 | デジタル・バングラデシュ (Digital Bangladesh)

- 「デジタル・バングラデシュ」は、2008年～2021年のIT関連政策スローガン。
- 与党アワミ連盟の2008年選挙公約集である「ビジョン2021」におけるIT関連政策をまとめたもの。

デジタル・バングラデシュの主な要素

- 人的資源開発
デジタル・バングラデシュの達成のためには、政策を前進させるための人材育成・確保が前提条件であり、教育も重要な要素となる。
- 国民をデジタルでつなぐ
貧富、識字・非識字、都市・農村を問わず、すべての国民がデジタル・バングラデシュにアクセスできる基盤を築く。
- 貧困削減のためのデジタル政府
政府のあらゆる分野において、最もサービスの行き届いていない人々にサービスを提供するために、テクノロジーを活用していく。
- ICTビジネス
市場へのアクセス、デジタル・バングラデシュをサポートするICTビジネスの促進、輸出促進を目指す。

デジタル・バングラデシュのコンセプト図



2 | スマート・バングラデシュ・ビジョン2041

- **デジタル・バングラデシュの後継ビジョンとして策定された、国家スマート化の方策。**
- 2041年までに発展した豊かな国を築くための包括的なDX推進のためのビジョン。

これまでの国家デジタル化に関する達成事項

- 3,600人以上の公務員に対する研修
- 424の公的サービスの簡略化
- 62以上の官公庁にてサービス手順が簡略化
- 1億3,000万人のインターネット・ユーザー
- 国内60万人のフリーランサーの育成
- 2,000以上のサービスのデジタル化
- 9つのハイテク・パークの建設
- 1万人の女性向け研修
- 200万人のデジタル人材
- 8,280のデジタル・センター設置
- 人工衛星（ボンゴボンドゥ1号）の打ち上げ

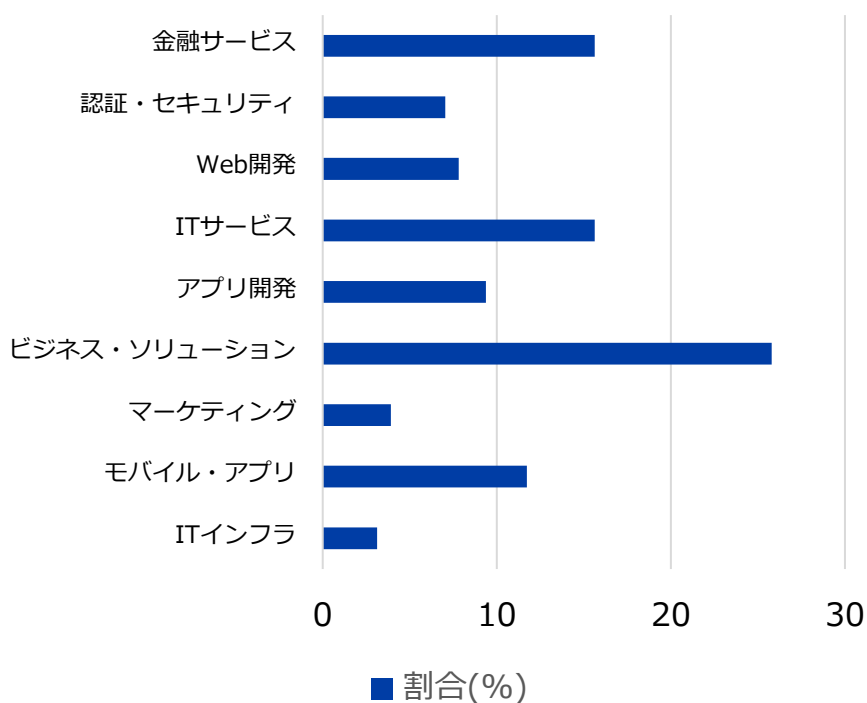
スマート・バングラデシュを構成する4つの柱



3 | IT関連企業数（主な分野別内訳）

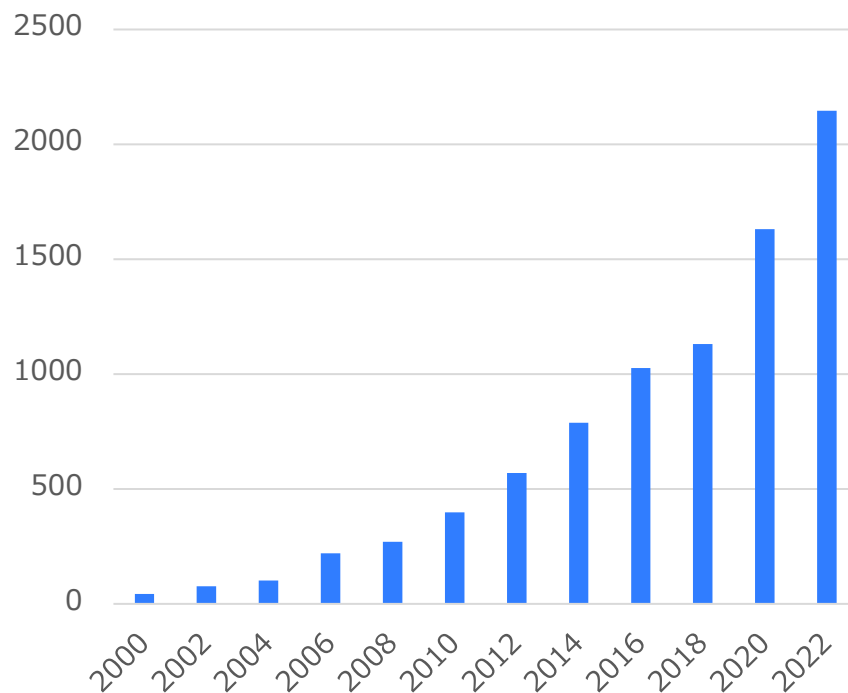
- IT関連企業数 [バングラデシュ・ソフトウェア・情報サービス協会（BASIS）登録企業] は2017年時点に比べ倍増しており、2022年には2,000社を超えて急拡大中。
- **ビジネス・ソリューション、ITサービス、フィンテックが主力分野。**

BASISメンバー企業のビジネス分野



(出所) BASIS (2021)

BASISメンバー企業の登録社数推移

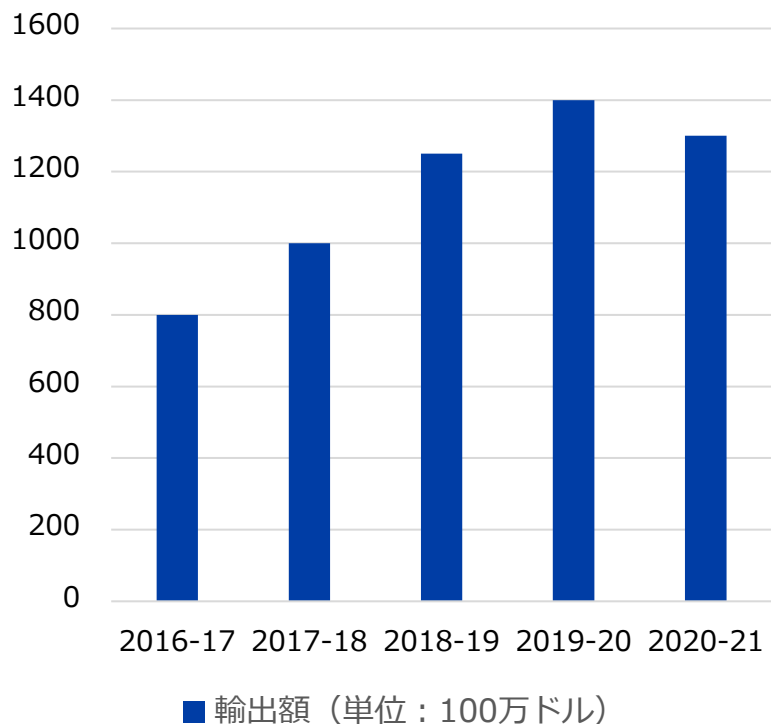


(出所) BASIS (2023)

4 | IT関連サービスの輸出分野・輸出額推移

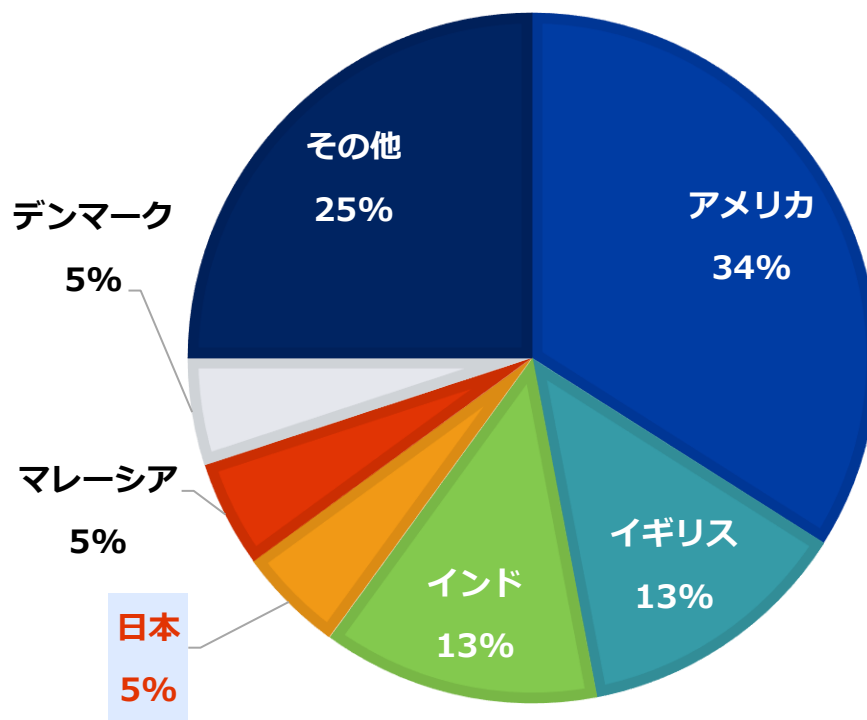
- 繊維産業に次ぐ第2の輸出産業としてICT分野は期待されており、2021年の14億ドルから2025年には50億ドルの輸出産業にすることを目指している。
- **ICT産業の主な輸出先は欧米向け、日本向けは5%程度にとどまっており、政府は拡大を期待。**

バングラデシュのICT輸出額推移



(出所) BASIS (2021)

主なICT産業の輸出先



(出所) BASIS (2023)

5 | バングラデシュのICTインフラ・デバイスの普及状況

- **携帯電話の保有世帯率は、約97%にまで増加している。**
- 一方、インターネットの普及率は40%程度にとどまっている。
- 2025年までに4G通信へのアクセスは60%に増加も、5G通信へは6%程度にとどまる予測。

ICTインフラ・ツールの普及状況

	世帯保有率	個人利用率
コンピューター	8.7%	7.4%
携帯電話	97.4%	89.9%
インターネット	38.1%	38.9%
固定電話	0.8%	—
ラジオ	12.8%	—
テレビ	62.0%	—
電気	98.9%	—

(注) 「世帯保有率」はハードウェアとしての保有割合。「個人利用率」はこれらのICTツールを使える状況にある割合。

(出所) Bangladesh Bureau of Statistics (2022), World Bank (2023), GSMA (2022)

その他のICTインフラ関連予測

- スマートフォンの普及率は、2021年の47%から2025年には63%に拡大する。
- 4G通信へのアクセスは2018年の37%から2025年には60%に拡大する。
- 5G通信は2025年時点でも6%程度にとどまる。

6 | バングラデシュのIT産業の課題（インタビューより）

大規模なIT企業の少なさ

- BASISへの登録メンバー企業のうち、100人以上のエンジニアを抱えているのはわずか5%など、**中小企業規模のIT企業が大半**を占めている。
- 日本とビジネスを行っている最大規模のIT企業は BJIT Limited であり、800人以上のエンジニアを抱えている。同社はバングラデシュのIT産業でも大規模な企業の1つであり、国全体で、1,000人を超える企業は数えるほどしかない。
- そのため、**大規模ウォーターフォール型開発への対応の経験より、機動的なアジャイル開発に強みを持つ企業が多い。**

(注) ウォーターフォール型開発：開発工程を段階的に区切って、順を追って進行させる開発手法。

アジャイル型開発：厳密な仕様は決めず、小規模な「実装-テスト」を繰り返しながら開発する手法。

海外送金の難しさ

- バングラデシュ**国内の制度上の問題で海外への送金が難しい**ことから、バングラデシュ国内で利益を出して海外に投資をしていくモデルが作りづらい。
- その結果、オフショア開発などを通じて、海外からの投資を受け入れて開発するモデルが多い。

輩出される人材の技術力に関する課題

- 大学によってレベルの差が激しく、コンピューター・サイエンスの大卒資格を持っていることと、仕事でつかえることはイコールではない。
- **バックエンドの技術力が高い人材は多いが、フロントエンドの技術については、現状、まだ技術力が高いエンジニアが少ない。**

JETRO

Ⅲ. バングラデシュのデジタル人材の概要

1 | デジタル人材の総数および輩出状況

概要

- 2016年は年当たりには輩出されるデジタル人材が約1万人であったが、2021年の文献では2万人とされている（Hossain, 2016; BASIS, 2021）。
- 今回のインタビュー調査でも、ひと学年当たりのコンピューター・サイエンス専攻の学生が1,000人を超える私立大学が複数あるなど、現在は毎年2万人を大きく上回る卒業生が出ていると推測される（例：ダフォディル国際大学のコンピューター・サイエンス専攻に在籍する学生は約9,000人、ノース・サウス大学では約6,000人）。
- 大学ではコンピューター・サイエンスをはじめとするIT関連の専攻が最も人気が高く、専攻する人材は年々急増している。

輩出される人材の技術力に関する課題

- 2021年時点で、バングラデシュ国内の新卒IT人材のニーズは7,500~8,000人/年といわれている。しかし、IT産業界からは、この国内ニーズを満たすレベルの人材が輩出されていないという指摘もある。
- 大学によって人材のレベルの差が激しく、コンピューター・サイエンスの大卒資格を持っていることと、仕事で使えることはイコールではない。
- バックエンドの技術力が高い人材は多いが、フロントエンドの技術については、現状、まだ技術力が高いエンジニアが少ない。

（出所）インタビュー調査

2 | 使用可能なプログラミング言語

様々なプログラミング言語に対応可能

- 下表は、BASIS提供のバングラデシュIT企業が対応可能なプログラミング一覧。
- 主要な言語は、カバーされている。

ASP.NET	Bun JS	C#	C/C++	Syncfusion	CSS	Dapper	Delphi
Drupal	Docker	DynamoDB	EntityFrame work	Flash	Flex	Flutter	Go
GraphQL	gRPC	HTML	Ionic	Java/JSP	JavaScript	Joomla	JSP
Kafka	Kotlin	Matlab	Magento	Memcached	Mongo DB	MySQL	Node.JS
Objective C	Oracle	Perl/CGI	PHP/Laravel	PostgreSQL	Python	RabbitMQ	Redis
ReactNative	Ruby on Rails	Rust	Scala	Scripts	SharePoint	Swift	TypeScript
VB	WordPress	XHTML	XML				

(出所) BASIS (2024)

プログラミング技術とシステム開発力の特徴

- PHP、Javaなどの言語が強い一方で、日本の新興企業に人気の高いGo、Ruby、Unity、Swiftなどの新言語を使えるエンジニアは限られており、採用後に育成する必要がある。
- ウォーターフォール型の開発の経験は多くなく、アジャイル型での開発経験が中心。
- 開発部隊としての強みはあるが、PM、システム・アーキテクトといったシニア層・マネジメント層は弱い印象。
- 日本とバングラデシュを繋ぐ**ブリッジ・エンジニア**もまだまだ足りていない。

(出所) インタビュー調査

3 | 技術レベル（公的試験など）

IT国家資格（日本のITパスポート、基本情報処理技術者と相互認証）

2014年よりITPECに加盟。FE資格（Fundamental Information Technology Engineer Examination、日本の基本情報処理技術者に相当）の保持者は400人を超えている。

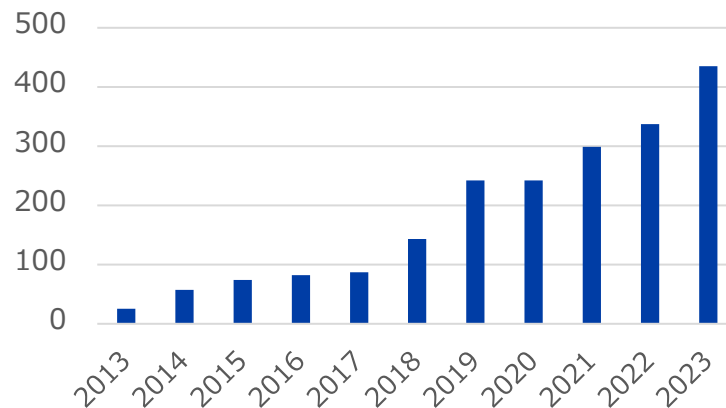
（注）ITPEC: ITプロフェッショナル試験協議会。アジア共通統一試験の実施機関。

2023年10月 FE試験の国ごとの合格状況

2023年10月 - アジア共通統一試験 FE試験				
国名	応募者数	受験者数	合格者数	合格率 (%)
フィリピン	217	207	57	27.5
タイ	19	19	7	36.8
ベトナム	232	226	114	50.4
ミャンマー	744	717	248	34.6
モンゴル	38	38	5	13.2
バングラデシュ	411	291	74	25.4
合計	1,661	1,498	505	33.7

（出所）ITPEC（2024）

バングラデシュのFE資格保持者（累計）



（出所）ITPEC（2024）

高い英語力

- 2014年の48カ国を対象としたTOEIC点数調査において、バングラデシュは受験者の平均が895点で第1位。
- 高等教育を受けるためには英語が必要なことが多い。

（出所）Hongo（2014）

4 | バングラデシュのデジタル人材の特徴

フリーランサーとしての高い需要

- フリーランサーは、バングラデシュ国内に60万人いる（バングラデシュ政府推計）。
- 2022～2023年で、フリーランサーの平均報酬額は27%の成長。
- 国内と国外の給与格差がフリーランサー増加を生んでおり、海外の企業と仕事をすることや、海外で働くことへの抵抗感は低い。
- フリーランスであれば国内にいても外国単価で稼げるため、国内にいながら所得の多いエンジニアも増えてきている一方、雇用が安定しない点に不安を感じるエンジニアも多い。

バックエンドとフロントエンドでの経験の差

- フロントエンドの業務（Web画面やインターフェース）は、発注者と受注者の文化背景や感覚に基づく認識差異に基づくミスコミュニケーションや誤解が起きやすく、フリーランスの業務としてはバック・エンドが多くなる傾向がある。
- そのため、フリーランサーの多いバングラデシュにおいて、外国企業との業務経験のあるエンジニアの中では、バックエンド（PHPなど）に強みを持つエンジニアが育っている。

（出所）インタビュー調査

5 | バングラデシュのデジタル人材の特徴（1）

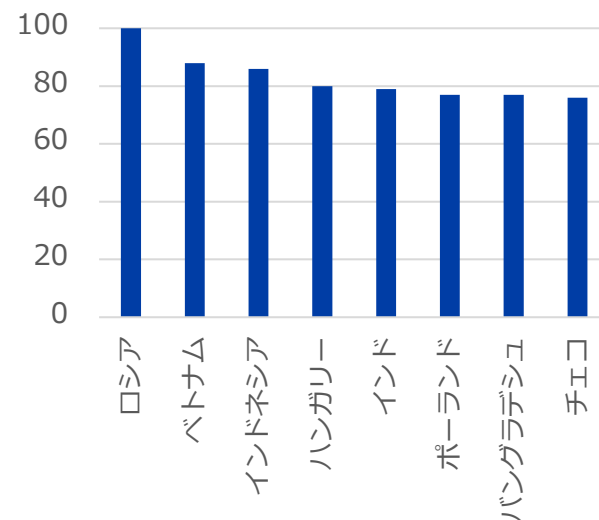
人材の特徴

- IT系は他業種と比べると給与が高く、人気のある職種である。
- 新卒の求人は多くないため、多くは中途採用である。
- フロントエンド系よりバックエンド系人材が豊富である。
- 高等教育としては、少数精鋭の国立大学、大規模展開の私立大学という関係性がある。
- 国内産業の中では給与が高いが、外国と比べると安価である（日本の1/2～1/3）。
- 優秀な大学ほど、デジタル人材が求める給与水準は高い傾向にある。

他国との比較

- ベトナムや中国は国内のIT産業の待遇が良くなってきており、優秀層が国内勤務を希望するケースが増えてきている。バングラデシュはまだ国内外の待遇差から、海外勤務に優秀な人材が集まる傾向は続いている。
- 温厚な性格の人が多く、マネジメントがしやすい。
- ベトナムは、バングラデシュの約1.5～2倍の人材コストがかかる。
- 英国、ドイツなどと比べ、日本が圧倒的に給与が安いということはない。米国やスイスなど一部の国が突出して高い状況にある。
- 右図のように、高いプログラミング技術や安価な給与水準から、オフショア開発先として有望（MetaSource, 2020）。

最適なオフショア開発先



5 | バングラデシュのデジタル人材の特徴（2）

バングラデシュ人材の強み

- 親日感情（二国間援助で日本が第1位。国内でのトヨタの自動車シェアは約8割）が非常に強い。
- 他国と比べて廉価な人件費。
- コンピュータ関連専攻学生の人材規模が大きく、海外への就職願望が強い。
- 高い英語力。高い技術力・プログラミング力。
- フリーランサー（全般）は、バングラデシュ国内に60万人いる。フリーランサー（全般）の発注先ランキング数で世界8位（Payoneer, 2023）。
- フロントエンド系よりバックエンド系人材が豊富。バックエンド・エンジニアの海外企業との豊富な経験。
- 素直で好奇心があり、向上心も高い。

バングラデシュ人材の弱み

- コミュニケーションや時間管理を中心としたソフトスキルに課題があると認識している日本企業は多く、オフショア開発の場合はブリッジ・エンジニアなどの中間人材・中間会社によるサポートが重要となる。
- プロジェクト・マネジメント力について、時間・スケジュール管理についての課題が多く、マネジメント層の育成が、今後の課題である。
- フロントエンド・エンジニアの海外企業との経験が浅い。フロントエンドの業務（Web画面やインターフェース）は、発注者と受注者の文化背景や感覚に基づく認識差異に基づくミスコミュニケーションや誤解が起きやすく、フリーランスの業務としてはバックエンドが多くなる傾向がある。
- できないことでも「できる」と言ってしまう文化があり、進捗管理は重要である。

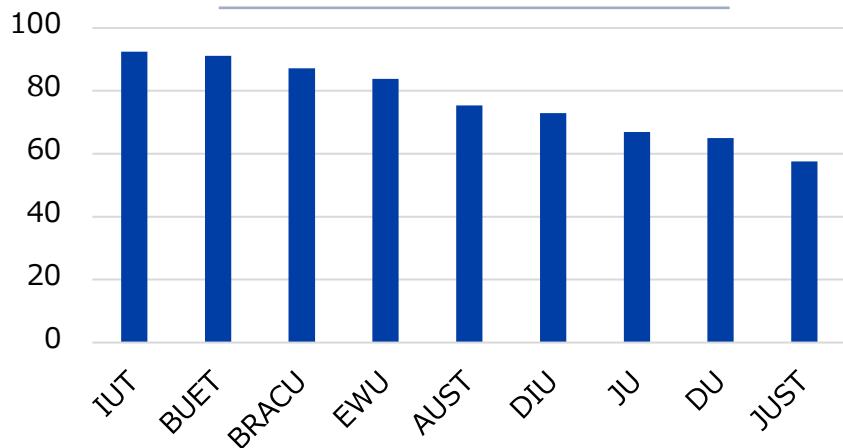
JETRO

IV. バングラデシュの大学教育とキャリア

1 | 大卒人材の状況

- IT系の学位を取得しても、その後の就職活動に苦労するケースが多い。
- 特に地方の大学では、IT系の就職活動はダッカに比べて難しい傾向。
- **日本企業の採用には、上位層獲得のチャンスあり。**

大学別の卒業後の就職獲得率 (%)



(注1) 大学名の略称。

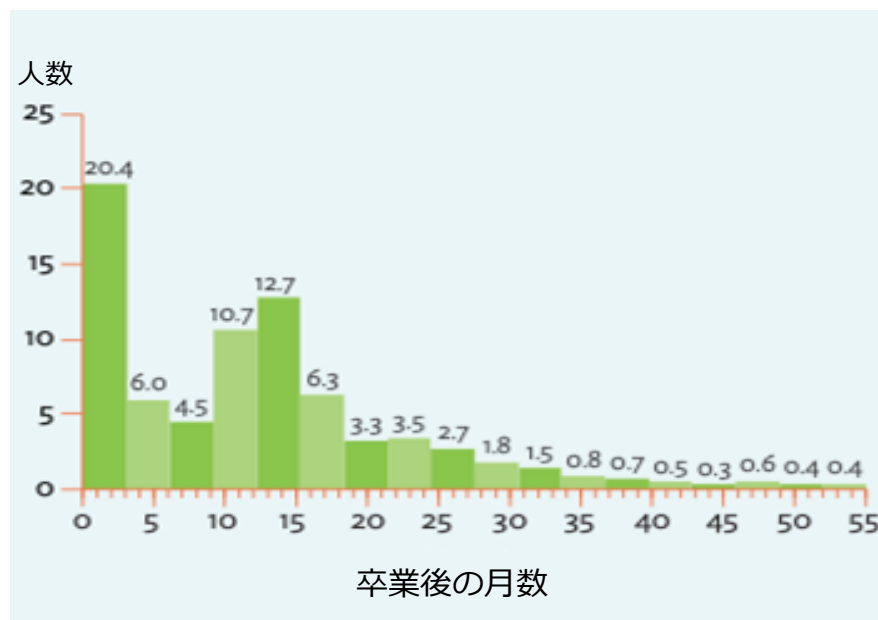
AUST = Ahsanullah University of Science and Technology,
 BRACU = BRAC University,
 BUET = Bangladesh University of Engineering and Technology,
 DIU = Daffodil International University,
 DU = University of Dhaka, EWU = East West University,
 IUT = Islamic University of Technology,
 JU = Jahangirnagar University,
 JUST = Jashore University of Science and Technology.

(注2) 計算方法：

IT系大卒者向けのアンケート回答時に仕事に就いていると答えた
 人数 / アンケート回答者数。

(出所) Asian Development Bank (2019)

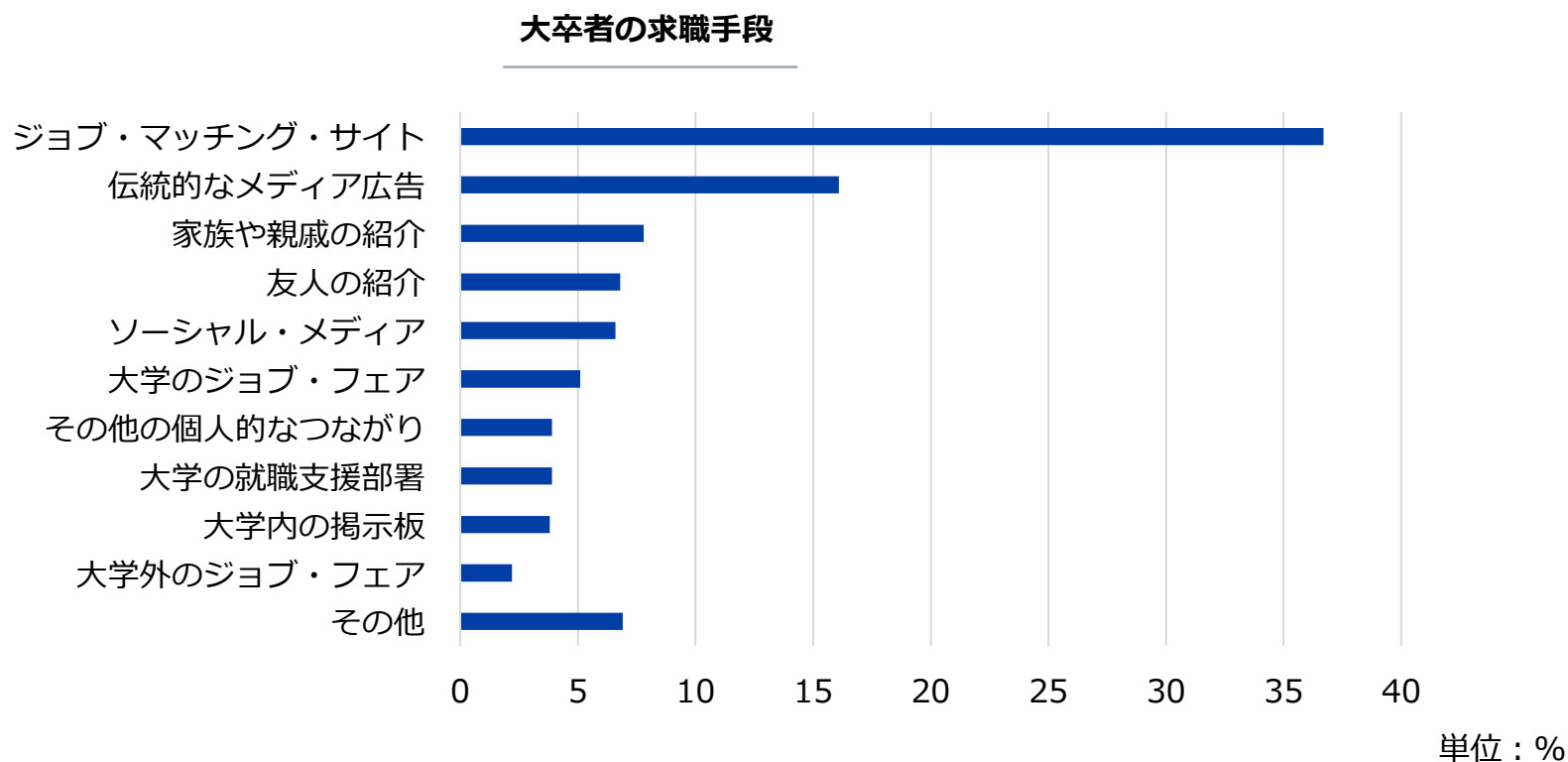
大学卒業から仕事を見つけるまでの期間



(出所) Asian Development Bank (2019)

2 | 大卒人材のジョブ・マッチング（バ国内向け）

- 国内で仕事を探す方法としては、オンラインのジョブ・マッチング・サイト経由が最有力。最大手はBDJobs.com。日系企業ではatB-JOBSが参入。
- その他にはメディア広告、知人の紹介、ソーシャル・メディア、と続く。



(出所) Asian Development Bank (2019)

3 | IT関連専攻の大卒者の給与水準・雇用形態（文献調査）

- 新卒者のデジタル人材の平均月給は3万8,000タカ（約5万円、1タカ=約1.3円）である。
- デジタル人材のうち、ソフトウェア・エンジニアがやや高く、約4万タカが平均である。
- バングラデシュの大卒者の契約形態としては、長期雇用契約が一般的（フリーランスは除く）である。

ジェンダー・雇用種別ごとの新卒給与（単位：タカ）

雇用種別	男性		女性		全体	
	平均（中央値）	標準偏差	平均（中央値）	標準偏差	平均（中央値）	標準偏差
雇用	39,513 (40,000)	20,185 (n=703)	34,993 (30,000)	19,214 (n=136)	38,780 (38,000)	20,089 (n=839)
個人事業主	52,530 (20,000)	91,777 (n=33)	34,250 (14,500)	44,169 (n=4)	50,554 (20,000)	87,652 (n=37)

職種・雇用種別ごとの新卒給与（単位：タカ）

職種	雇用		個人事業主	
	平均（中央値）	標準偏差	平均（中央値）	標準偏差
ITサービス	38,622 (37,000)	19,413 (n=548)	37,891 (19,000)	44,081 (n=32)
ソフトウェア	39,772 (40,000)	19,327 (n=457)	42,040 (20,000)	48,098 (n=25)
ITコンサル	38,364 (38,000)	18,356 (n=33)	32,250 (32,250)	39,244 (n=2)
ネットワーキング	26,448 (20,000)	17,691 (n=29)	22,000 (19,000)	16,713 (n=4)
その他ITサービス	32,959 (30,000)	19,305 (n=29)	9,000 (9,000)	N/A (n=1)
教育業界	40,237 (40,000)	20,882 (n=169)	—	—
金融業	38,986 (35,000)	17,126 (n=37)	—	—
製造業	34,346 (27,500)	31,319 (n=26)	—	—
その他	37,898 (35,000)	19,811 (n=59)	131,600 (20,000)	211,170 (n=5)

4 | IT関連専攻の大卒者の給与水準・雇用形態（インタビュー）

インタビュー調査の中から、給与水準関連のコメントを抜粋

- 主要大学のIT関連専攻の卒業生の需要は高く、77%と高い就職率に加えて、に4~5万タカ（約5.2万~6.5万円、1タカ=約1.3円）の初任給のケースが多い。
- 約5~10社での就業経験があるエンジニアの月収が、バングラデシュでは約10万タカであり、日本の月40~50万円と比べると、まだまだ安価である。
- 33歳、9年目のPHPエンジニアを、月8万タカで雇用している。
- 新卒で就職して経験年数を積んでも、勤務年数約10年で月10万タカ程度、とエンジニアとしては年収が頭打ちになることが多い。そこからは転職でステップアップしていくか、マネジメントのキャリアに移行することで、収入を上げていく。
- 新卒で非エンジニアだと3万タカくらいが相場。エンジニアの場合、スキルによってはその2倍程度のケースもあり、差が大きい。一方、他職種と比べるとデジタル人材の給与は高めであり、給与の不満は、国内ではそこまで多くないと考えられる。
- 高学歴者は初任給の希望給与が高く、プライドも高い傾向がある。ダッカの大手私大卒で3年経験で月7.5万タカの要求をされて驚いた。
- バングラデシュ国内では月12万タカくらいの収入があると比較的裕福な層（日本の感覚だと年収1,000万円）という相場感だと感じている。
- バングラデシュで月12万~15万タカの経験ある人材を日本で30万~50万円で雇えるのであれば、双方悪い話では決していない。

5 | 大学教育の課題

実践的な教育の不足

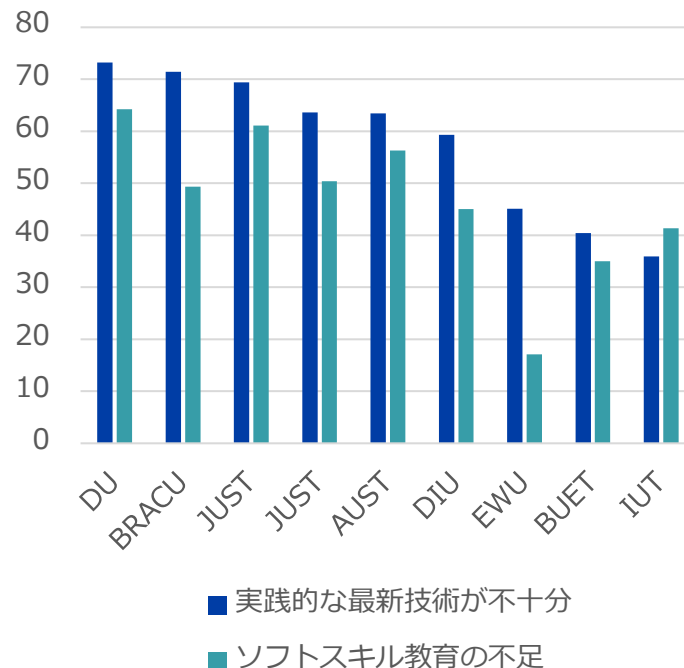
- コンピューター・サイエンス専攻における教育内容が理論偏重になっており、実務界のニーズを満たしていない (Business Insider, 2021)。
- コンピューターLabなどの施設が不足している (Business Insider, 2021)。
- 最新技術に関する実習時間が少ないと感じている学生が多い (ADB, 2021)。
- ソフトスキル教育がカリキュラムにほとんど含まれていない (ADB, 2021)。

IT関連専攻の学生向けの日本語教育

- 日本に関心を持つ学生は多いが、本邦採用にあたっては、日本企業の求める日本語力とのギャップが大きい。
- ベトナムで実績のあるHEDSPI（ハノイ工科大学で日本語とITを同時に学ぶ専攻）のような大学教育があれば、日本向け人材を量産できる体制につながる可能性がある。

(出所) インタビュー調査

卒業生の教育内容への不満



(注) 大学名の略称

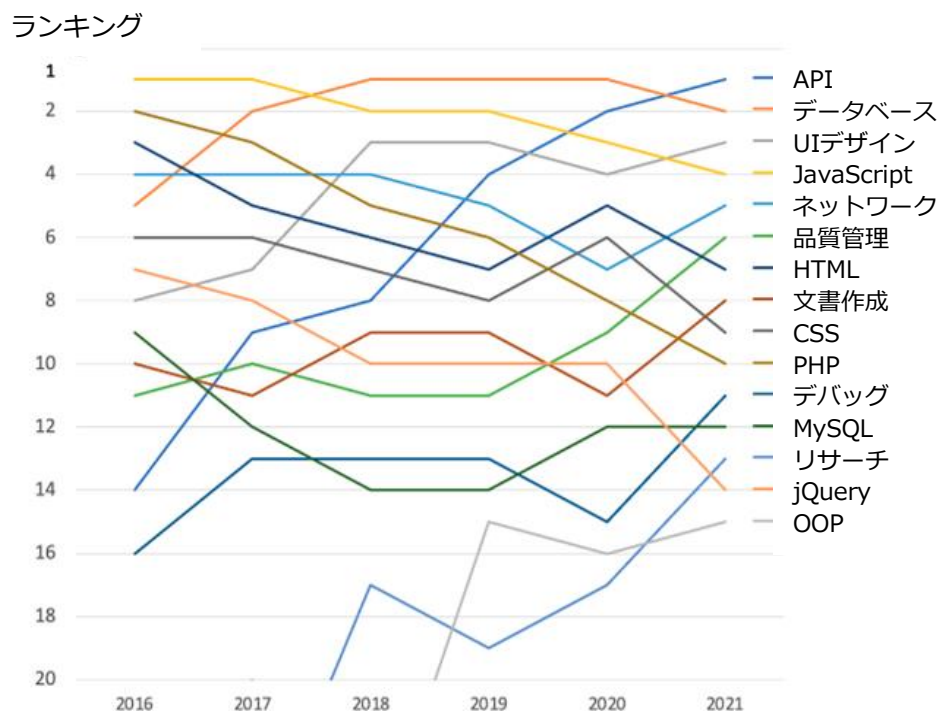
AUST = Ahsanullah University of Science and Technology, BRACU = BRAC University, BUET = Bangladesh University of Engineering and Technology, DIU = Daffodil International University, DU = University of Dhaka, EWU = East West University, IUT = Islamic University of Technology, JU = Jahangirnagar University, JUST = Jashore University of Science and Technology.

(出所) Asian Development Bank (2019)

6 | バングラデシュ国内での求人状況

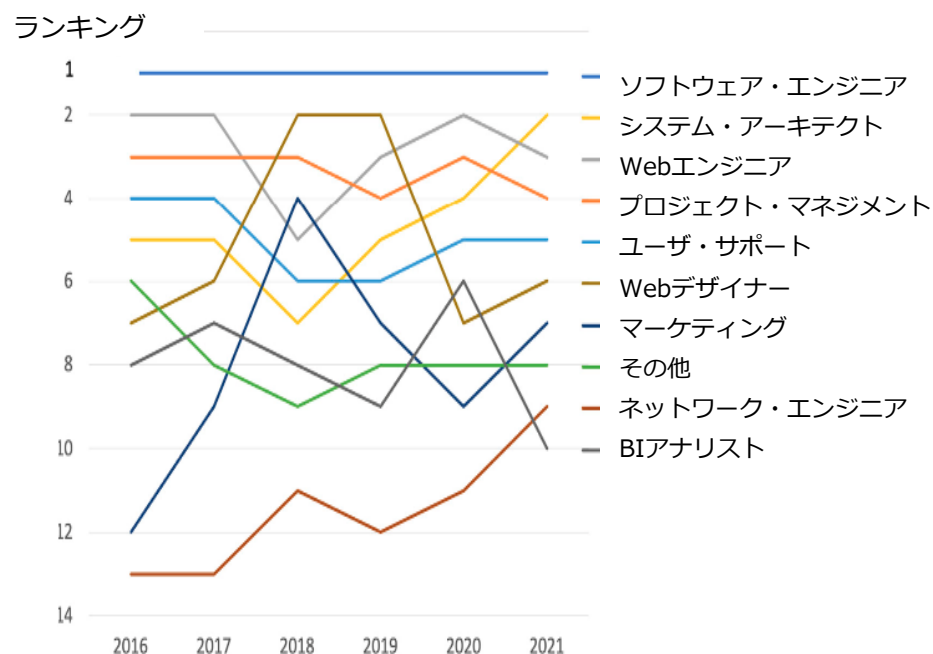
- バ国内の求人情報サイト（BDJobs.com）では、API、データベース、UIデザインの需要が高い。
- 人気のある職種は、ソフトウェア・エンジニアが安定的にトップ。続いてシステム・アーキテクトやウェブ・エンジニア、プロジェクト・マネージャーの需要が高い。

市場で求められるITスキル



(出所) Jony et al. (2022)

市場で求められるIT職種



(出所) Jony et al. (2022)

7 | ITエンジニアを採用するのに有力な大学候補（リスト）

- 国立大学は少数精鋭、私立大学はマーケットに合わせてIT関連の定員を大幅に増やしている。
- トップ大学（BUET、ダッカ大学）などでは給与が高く、英語で仕事ができる欧米企業への就職を希望することが多い。
- 以下は国際機関のデジタル人材調査で名前の挙がった主要大学、およびインタビューの中で名前が挙がった大学。

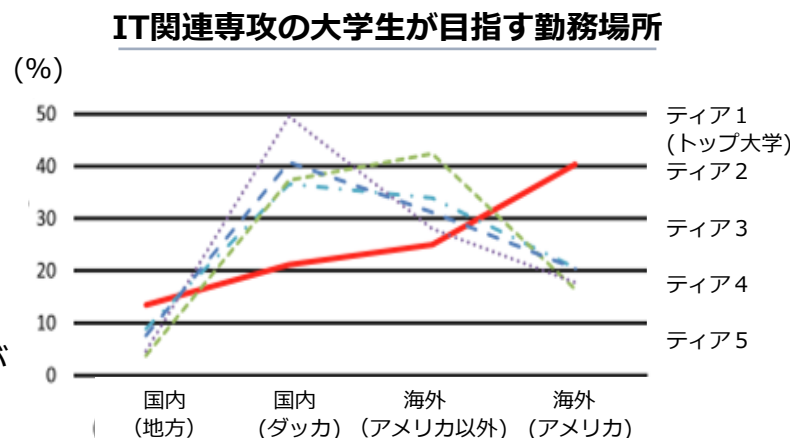
大学名	所在地（管区）	国公立・私立
ラッシャヒ大学（University of Rajshahi）	ラッシャヒ	国公立
BRAC大学（BRAC University）	ダッカ	私立
バングラデシュ工科大学（Bangladesh University of Engineering and Technology（BUET））	ダッカ	公立
ダフォディル国際大学（Daffodil International University）	ダッカ	私立
ダッカ大学（University of Dhaka）	ダッカ	国公立
イースト・ウエスト大学（East West University）	ダッカ	私立
ジャハンギナゴール大学（Jahangirnagar University）	ダッカ	国公立
ジョソール科学技術大学 （Jashore University of Science and Technology）	クルナ	国公立
イスラム工科大学（Islamic University of Technology）	ダッカ	私立
ノース・サウス大学（North South University）	ダッカ	私立
アメリカン国際大学（American International University）	ダッカ	私立
チッタゴン工科大学（Chittagong University of Engineering and Technology（CUET））	チッタゴン	国公立

8 | ITエンジニアを採用するための大学教育（インタビュー）

インタビュー調査の中から、大学教育と採用に関連するコメントを抜粋

- 国立大学はコンピューター・サイエンス専攻で100人前後の定員が多い一方、私立では同専攻の定員が1,000人を超えるケースも珍しくない。国立は少数精鋭のエリート育成、私立は産業界向けに大規模に育成している傾向がある。
- BUETやダッカ大学などのトップ国立大学の卒業生は欧米を目指す傾向があり（右図参照）、日本に興味が高い層は、ノース・サウス大学やBRAC大学などの私大や、地方の国立に多い傾向がみられる。
- 大学でのコンピューター関連専攻では、主にCSE（Computer Science and Engineering）学科とIT（Information Technology）学科がある。CSEがより理論寄りで技術に深く学習するのにに対し、ITでは実社会での活用に近いことを学ぶ。CSE卒業生の多くがソフトウェア・エンジニアを目指すのに対し、IT卒業生はさまざまな業界で活躍していく。
- 産業界からは、CSEでの教育は理論重視で、実社会への応用力に欠けるという指摘がある。一方、トップ大学などの研究大学からは、研究者育成の側面もあるため、移り変わりの早い産業ニーズに寄せすぎることへの懸念も出ている。
- ダッカの大手私大はコンピューター・サイエンス専攻の学生が多いため、大学を訪問する形のキャリアフェアは効果的と思われる（欧米の企業はすでに実施済み）。
- 国内外の給与格差や勤務環境の差から、日本採用に興味を持つ学生は多い。

（出所）インタビュー調査



（出所）Kano et al., (2016)

JETRO

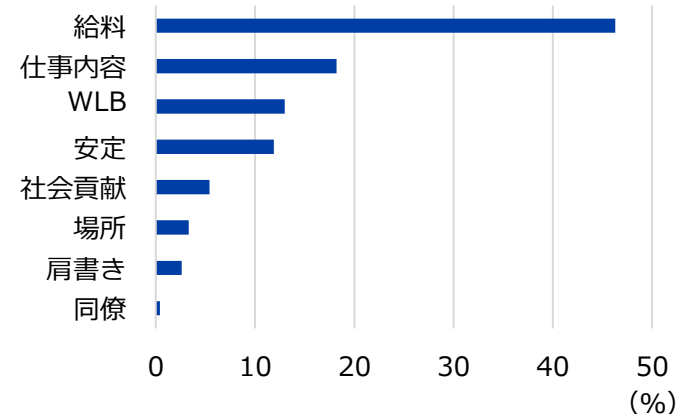
V. 日本・海外での就業・就職

1 | バングラデシュ デジタル人材のキャリア観

仕事選択のプライオリティは給与、業務内容、ワーク・ライフ・バランス、安定

- 高い**給与**は、わかりやすい評価指標として重要視される (Kano et al., 2016)。
- 仕事を選ぶ際は業務内容（特に自身が成長できるか、スキルを獲得できるか）に重きをおく (Kano et al., 2016)。
- ワークライフバランス (WLB) を大事にする (Kano et al., 2016)。
- 仕事の安定性は重要（国内勤務、欧米勤務、フリーランサーなどではこの安定性が低い）。
- 将来的にはプロジェクト・マネージャーやリーダーになりたいという**マネジメント志向**は強い。

仕事選択時の最重要事項

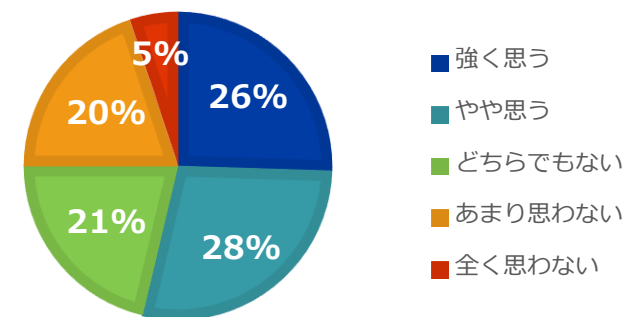


(出所) Kano et al.(2021)

海外志向は強く、長期的に滞在したいと考える人も多い

- IT関連専攻の大学生は、半数以上が海外就職時の定住を希望している (Kano et al., 2016)。
- 日本で就職したデジタル人材はその大半が日本に定住しており、バングラデシュに戻る人は非常に少ない（ただし、日本国内での転職は一定数発生している）。
- 日本の安定した就業環境は強い魅力。
- 将来的に家族を帯同できるかは1つの大きな判断基準となる。
- 一部の人材は**長期キャリアとしての起業**も考えており、実際の起業事例も出てきている。

海外就職先での定住願望



(出所) Kano et al.(2021)

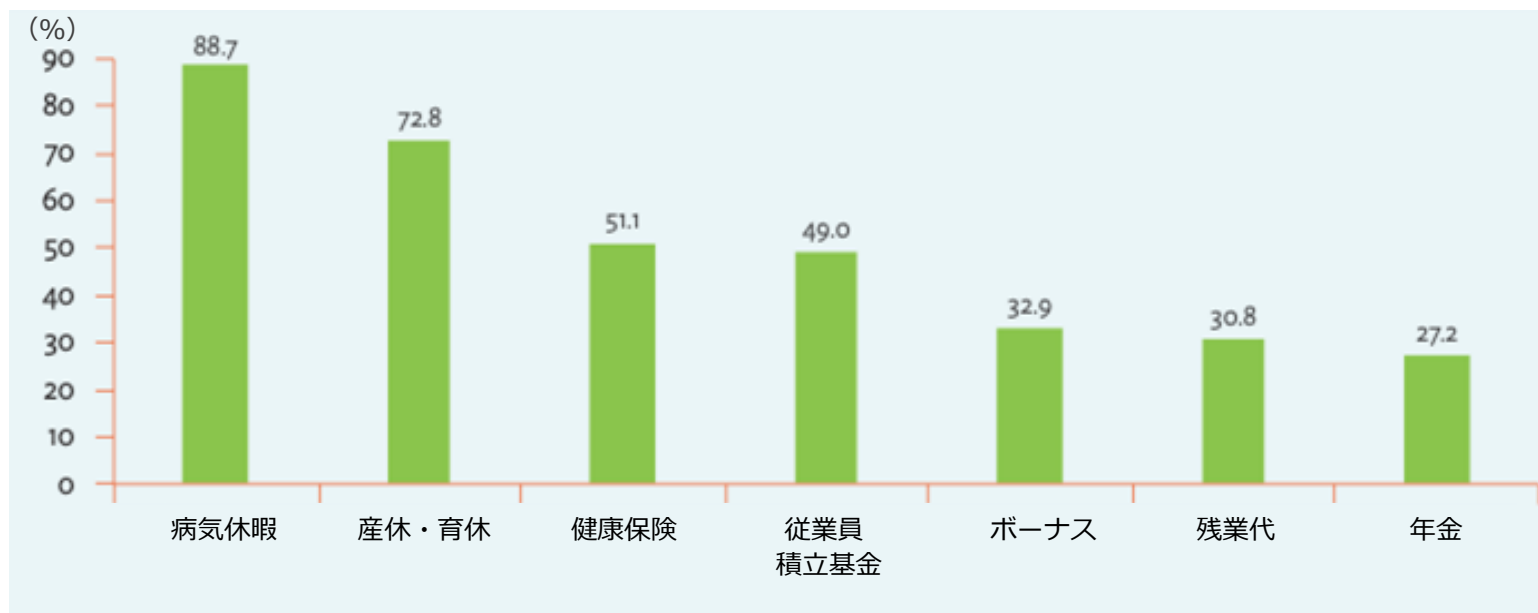
Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

(出所) 引用元の明記がないものは、インタビュー調査

2 | バングラデシュ企業の福利厚生

- バングラデシュ国内での福利厚生は、日本と比べると非常に貧弱。
- **日本企業にとっては当たり前の福利厚生**でも、外国人にとっては非常に魅力的に映る。

バングラデシュ国内勤務者が得ている福利厚生
(調査対象：IT関連専攻の卒業生)



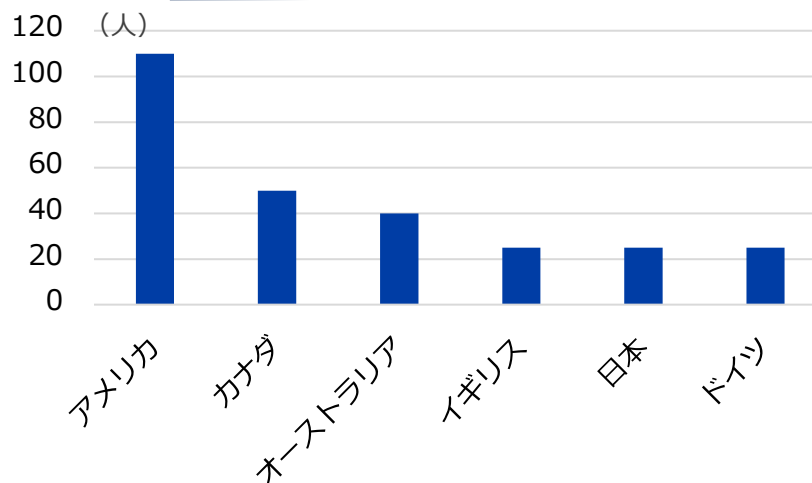
(出所) Asian Development Bank (2019)

3 | 日本向けの人材育成・人材紹介事業

- **政府・大学関連、民間関連ともに、日本向けの人材マッチング・サービスがある。**
- 政府・大学関連としては、ノース・サウス大学と宮崎大学が中心となって運営する**B-JETプログラム**（JICA事業として始まり、現在は民間事業として運営）にて人材育成を行い、連携先のグローバルギークス株式会社や株式会社B&Mによる就職支援・人材紹介が行われている。
- 民間関連としては、デジタル人材に日本語や商習慣を研修し、日本就職をサポートするVenturas Co., Ltd や株式会社 Kaicom Solutions Japan などが人材紹介事業を行っている。
- 一方、日本にエンジニアを送り出す事業を行うには、ライセンス取得が必要かつ承認プロセスが煩雑であり、日本に人材紹介ができる企業数は限られている。
- 一般社団法人日本 Bangladesh IT協会でも両国をつなぐビジネス推進のための情報提供や、セミナーなどを定期的に行っている。

(出所) インタビュー調査

最も働いてみたい国ランキング
(対象：IT関連専攻の大学生275人)



IT関連専攻の大学生が最も働いてみたい国として、日本は同率4位であり、非英語圏としてはドイツと並び首位に。

(出所) Kano et al. (2021)

4 | 日本企業によるハッカソンイベント

- コードサムライ（CODE SAMURAI）運営委員会（BJIT、グローバルギークス、ウルトラエックスなどのIT企業で構成）が、2022年12月、ダッカ大学工学部コンピュータ・サイエンス工学科と第2回ハッカソンを開催。
- バングラデシュの教育大臣やICT国務大臣、日本大使館、JICA、ジェトロも出席。
- **ダッカ大学（DU）、バングラデシュ工科大学（BUET）、ジャージャラル科学大学（SUST）、クルナ大学が上位受賞者**（第1回ハッカソン（2019年12月）の上位受賞者は、ダッカ大学、クルナ工科大学）。
- ハッカソンに併せ、長野市や宮崎大学、同市の企業などがイベントを視察。**人材採用の好機に。**

ハッカソンイベントの様子



(写真) ジェトロ撮影



(写真) ジェトロ撮影

5 | 日本就職の魅力（インタビュー）

人は働く国を選ぶ際、仕事と生活で選ぶ。
その観点からは日本は非常に魅力的。
安心・安全・美味しい・綺麗清潔。

給与

- 日本のITエンジニアの給与水準は十分魅力的。

文化

- 日本の文化（アニメなど）に興味を持っている人が多い。
- 統制が取れている。ルールを守る。

雇用

- 雇用の安定性が高い。1年後の心配をしないでよいことは、世界的に見ても日本だけではないか。特に不安定な雇用のフリーランサーには非常に魅力的。
- 雇用保険や健康保険は日本の強み。日本の福利厚生は世界的にみても、かなり優れている。
- 欧米のプロジェクトベースでドライな関係と異なり、継続的な関係を作ろうとする姿勢がみられる。

生活環境

- **住みやすさ**：日本は基本的にどこでも住みやすい。地方在住者からの満足度も高い。
- **治安**：特に女性からは、1人でも安心して住めるという点で非常に高い評価。
- **交通**：電車でどこにでも時間通りに行ける。

技術

- 少しでもキャリアを高めるために、新しい技術を使える日本の仕事に関心がある人材は多い。
- 日本の会社はイノベーションに着目している。

対日感情

- 日本は最大の友好国であり、最大の支援国（独立戦争時に、2番目に独立を認知した国であることへの感謝。鉄道・空港など日本の支援がたくさんあることの高い認知度）。
- 新しい技術と職務環境がある印象。特にアニメや漫画の影響もあり、若い世代ほど日本の印象はよいと思われる。

6 | 日本の難しさ（インタビュー）

仕事

- ウォーターフォール型開発への不慣れ。
バングラデシュではアジャイル開発が一般的。
- 日本で働くと残業があるという噂をバングラデシュ人も知っており、躊躇する人もいる。
- マネジメントが定期的に1-on-1をするなど、コミュニケーションをとることが推奨される。

文化

- 礼儀や形式張ったものが大切にされている。
従うことに抵抗はないが、詳しい説明が欲しい。
- 空気を読むこと。どう解釈すべきかわからず混乱することもある。
- 企業内の上下関係がバングラデシュでは緩いため、厳しいと難しさを感じることも。
- コミュニケーション文化の違いを理解することが重要。まずは「できる」という文化がある。「できた」の基準も、日本とは異なる可能性がある。
- 婉曲的な伝え方は、誤解を生みやすい。

言語

- N3以上でようやく就職しやすくなる。この要求水準は高すぎる。
- 新卒者に対しての日本語の条件づけが厳しい。
- 日本に来たばかりの時の日本語の壁がきつい。
- 漢字の難しさ（話せても読めない）。
- 敬語の使い方が難解。
- 社内で日本語を学べる環境があるとよい。

生活

- 豚・アルコールなどの宗教上の制約がある。
- 地方に行くとバングラデシュ人のコミュニティがなく、孤独を感じることもある。
- 来日初期のサポート。住居決めやそれに伴う手続きなどが難しい。

お金

- 来日に当たっての費用負担が大変。日本企業は最初の給与が来日2カ月後くらいになることもあり、そこまで生活するのが大変。借金をしてくる人、借りられない人などの苦勞もあり、サポートが必要。
- 自治体・政府などで新生活の立ち上げ期を支援できることが望ましい。

7 | バングラデシュ人が大事にすること、雇用の検討時や雇用時に注意すべきこと（インタビュー）

バングラデシュ人が大切にしていること

● 生活

- ・ 家族を帯同できるかどうか（就職時ではなく長期的な視点で）。
- ・ 長期的に働くことができるかどうか。

● 宗教

- ・ ハラル食の入手（ただし、通販でも手に入りやすくはなってきた）。
- ・ 礼拝場所・時間の確保（特別な部屋は必要なく、空いているスペースでOK）。
- ・ 宗教的な制約（礼拝、食事、髭など）を理解して欲しい（例：髭を剃れと言われた）。

● 仕事

- ・ 保守管理などの業務などより、チャレンジングな開発・問題解決を重要視する傾向がある。
- ・ 残業してでも働いて稼ぎたい人と、生活を大切にすると両方いる。残業の傾向などは、ミスマッチ防止のためにも、採用前に会社から明確に説明してほしい。

雇用を検討し始めた際、雇用した際の注意点

- 四年制大学を卒業していないと、ビザ取得が厳しくなる。
- 最上位層は英語で勝負できる欧米に行きたがるため、採用が難しい。
- ダメな時にははっきり伝える。「大丈夫です」と口では言いつつ、言葉通り捉えると誤解を生むことになる点などで、難しさを感じているバングラデシュ人も居る。
- アジャイル的なやり方で、その時々柔軟な対応が好み。ルールがかっちり決まった開発プロセスをあまり好まない傾向がある。
- 日本語の条件さえ外せば、採用のポテンシャル層が圧倒的に広がる。
- 日本人より安く雇えるという感覚ではダメ（日本で勤務してもらう場合）。

8 | 転職とキャリアパス（インタビュー）

来日後の転職ケース（大半が国内で発生）

- **転職の理由**
 - ・ 自分自身の市場価値を高めるため。
 - ・ より高い給与の仕事を見つけたため。
 - ・ 触れられる技術領域を広めるため。
- **バングラデシュ人経由での転職**
 - ・ リファラル採用（知人の紹介制度）がある企業に人材が集まっていく。
 - ・ 同じ大学卒業者の人脈も強く、人材経由で採用するのは効率的。
- **言語力**
 - ・ 仕事のステップアップが望めるため、日本語が上達したタイミングで、転職を考える人が多い。
 - ・ （日本国内の）英語で仕事ができる環境に移るケースも発生している。

将来のキャリアパス

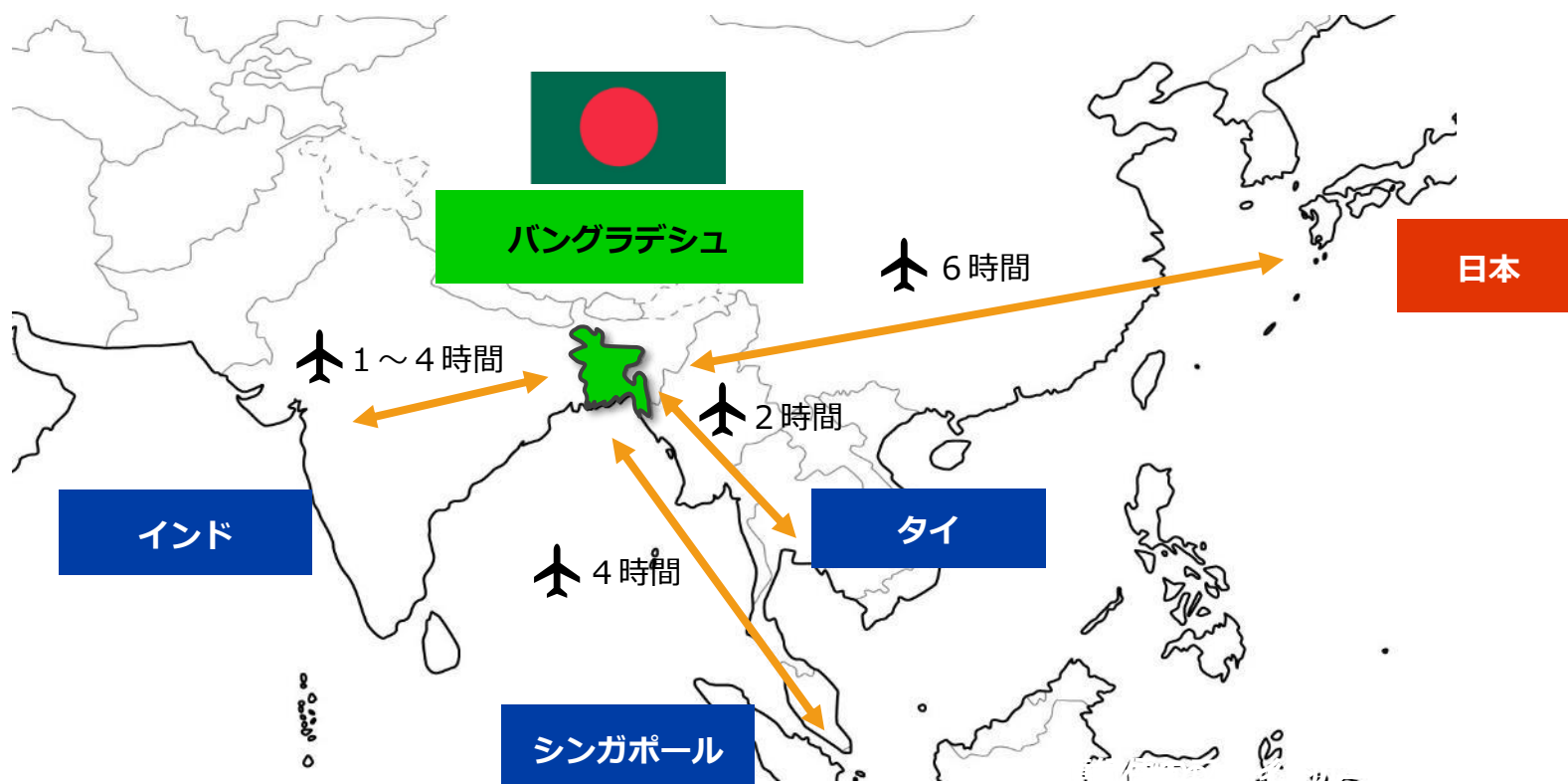
- **起業**に興味のある学生は一定数いるものの、エンジニアとして日本で定住しているケースが大多数。
- 起業、マネジメントへの昇進などロールモデルが今後増えてくると、より多様なキャリアパスが日本にあることが、バングラデシュ国内のIT人材に伝わっていくはず。
- 起業希望者は、日本を拠点にしつつ将来的にバングラデシュと関わる仕事を検討している人が多い。
- 実際の起業事例もみられる。
- とある都内のIT企業で働いている複数名の友人は、来日後8～10年経つが帰国した人はいないと言っている。多くの友人が東京に残って働いているという事実が、日本勤務の魅力の全てを物語っている。

JETRO

VI. バングラデシュと日本との関係

1 | バングラデシュと日本の関係性

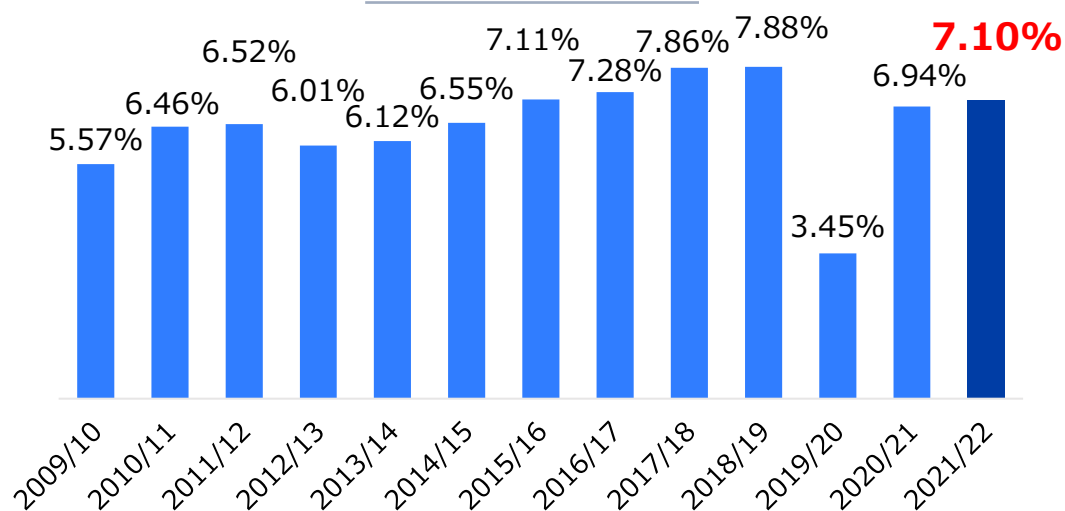
- ASEANと南西アジアの結節点。ベンガル湾の要衝、「開かれたインド太平洋」でも重要。
- 日本企業はシンガポール、タイ、インド拠点からバングラデシュを管轄することも多い。
- 23年9月に再開した日本との直行便（ビーマンバングラデシュ航空、成田）では6時間（タイよりも短い）。
- 23年4月、二国間関係が「包括的パートナーシップ」から「戦略的パートナーシップ」に格上げ。



2 | バングラデシュの経済動向

- 新型コロナ禍においても高い経済成長。主に製造業、内需、政府投資が経済を下支え。
- **1人当たりGDP2,462ドル**
〔インド、中国（2006年）、インドネシア（2007年）、ベトナム（2014年）〕
- 2022/23年度は7.5%成長見込。ADBは6.6%、世界銀行は5.2%成長予想。
- 国連は**2026年、バングラデシュの後発開発途上国（LDC）からの卒業**決定（GSP対象外）。ウクライナ戦争で**エネルギー価格・食料品が高騰し輸入急増**し、外貨準備高は150億ドル急減。輸入抑制、計画停電など対策を実施し、1月末時点で200億ドル（輸入3カ月相当）。

過去10年の経済成長率



(出所) バングラデシュ統計局

主要産業は縫製業

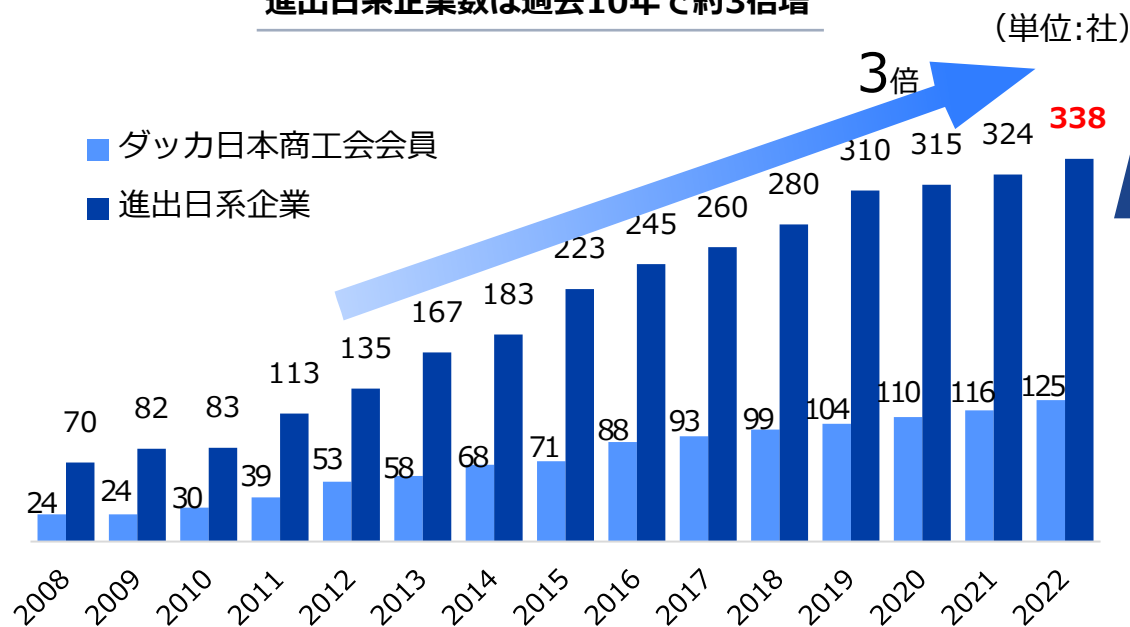


(写真) キャットガーメント提供

3 | 日系企業の動向

- 日系企業は338社進出、ダッカ日本商工会会員企業は140社（2024年1月時点）。
- 繊維業、軽工業などの製造輸出拠点として企業の進出が多い。直近は国内のインフラプロジェクトの受注を目指す建設業を中心とした日系企業の進出が相次ぐ。
- 内需を目指す日系企業、**IT企業からの注目も増加（オフショア、開発拠点、人材採用など）**。
- 住友商事がバングラデシュ経済特区庁（BEZA）と開発する「**バングラデシュ経済特区**」（**BSEZ**）（ナラヤンゴンジ・アライハザール、ダッカから車で1時間）が2022年12月に操業開始。

進出日系企業数は過去10年で約3倍増



(出所) ジェトロ、ダッカ日本商工会

バングラデシュ経済特区（BSEZ）
が22年12月、操業開始



(写真) ジェトロ撮影

4 | バングラデシュ政府の日本向けビジネスサポート BASIS Japan Desk

- 2016年にBASIS（バングラデシュ・ソフトウェア・情報サービス協会）内に、対日ビジネスに特化したJapan Focus Groupが設置された。
- **2020年からはBASIS Japan Deskを設立し、日本とのビジネスを促進する活動を行っている。**

BASIS Japan Desk

- ホームページ：<https://japandesk.basis.org.bd/content/b2b>
- 関連記事(JETRO)：<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/04/1bdfe230ed13dad3.html>
- 100社以上のIT企業が登録。
- 主な活動
 - ・ ビジネス・マッチングの促進
 - ・ 各種研修（B-MEETなど）への協力。
 - ・ Japan IT Week への参加。
- 幹部
 - ・ 会長：AKMアメドウル・イスラム・バブ氏
(TechKnowGram Limited)
 - ・ 副会長：M. ラヒドウル・ハサン氏
(Systech Digital Limited)
 - ・ 副会長：マティン・マヒン氏
(BacBon Limited)



(出所) BASIS Japan Desk (2024)

5 | 日本政府が支援してきたICT人材・産業開発

- 日本政府はこれまで、バングラデシュのICT人材・産業開発に貢献してきた。
- 青年海外協力隊（コンピューター技術）の派遣からはじまり、IT国家資格（ITEE）導入プロジェクト、日本市場をターゲットとしたICT人材育成プロジェクトとその代表プログラムとしてのB-JET（Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program）を実施。
- 現在はノース・サウス大学と宮崎大学が連携協定を結び、エンジニアの日本語教育と日本就職を目指すB-JET（新）、バングラデシュでの国内人材育成を目指すB-MEETなどが実施されている。
- 2024年からは「ICT産業振興およびイノベーション推進に資する人材育成プロジェクト」が開始された。

日本政府が関係するICT人材・産業開発プロジェクト

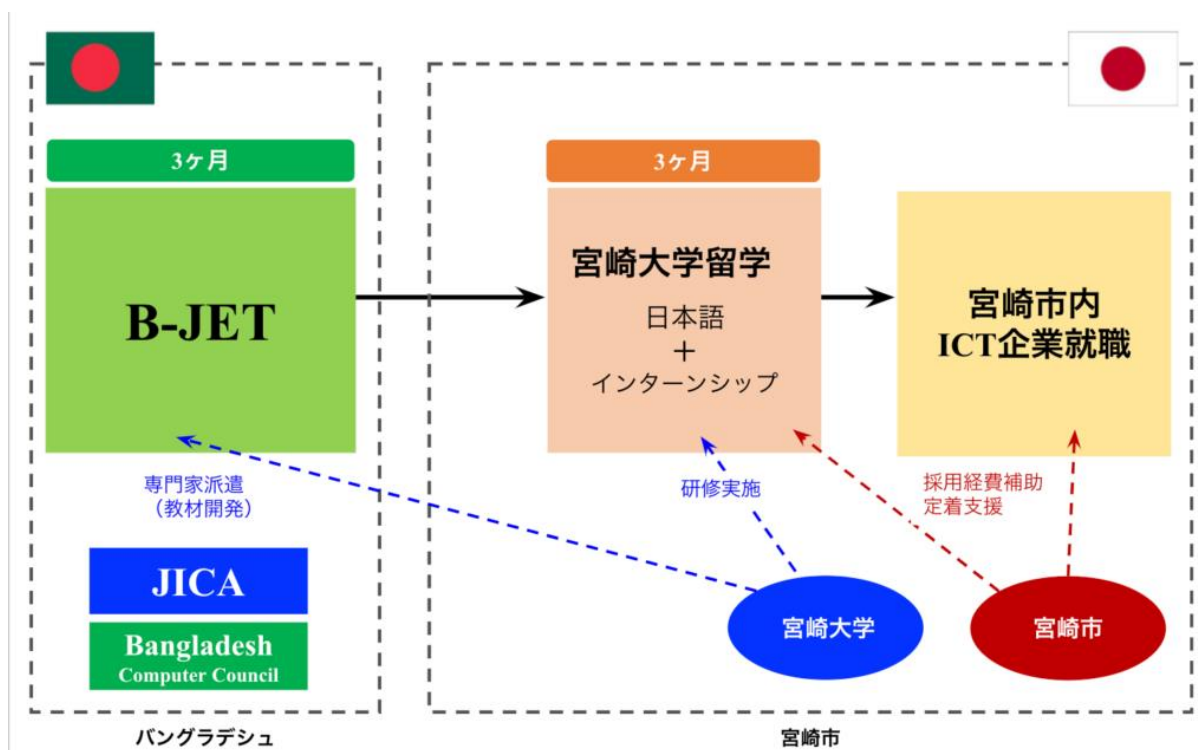
案件名	スキーム	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024	2026	
青年海外協力隊	JICA ボランティア	■										
ITEEマネジメント 能力向上プロジェクト	JICA 技術協力				■							
日本市場をターゲットとしたICT人 材育成プロジェクト (B-JET/ITEE)	JICA 技術協力						■					
外国人ICT技術者人材育成 プログラム (B-JET (New))	産学連携 (民営化)								■			
宮崎-バングラデシュICT人材育成 事業 (B-MEET)	JICA草の根 技術協力									■		
ICT産業振興及び イノベーション推進に資する 人材育成プロジェクト	JICA 技術協力										■	

(出所) ヒアリング調査等を基にジェトロ作成

6 | 産官学連携プロジェクト紹介 B-JET および 宮崎ーバングラデシュ・モデル

- JICA技術協カプロジェクトの1つのコンポーネントとして、**日本市場向け人材育成プログラムとしてB-JET**（Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program）がある。
- 高度外国IT人材の受け入れモデルとして**宮崎ーバングラデシュ・モデル**があり、自治体・大学・企業連携の成功モデルとして参照されている。

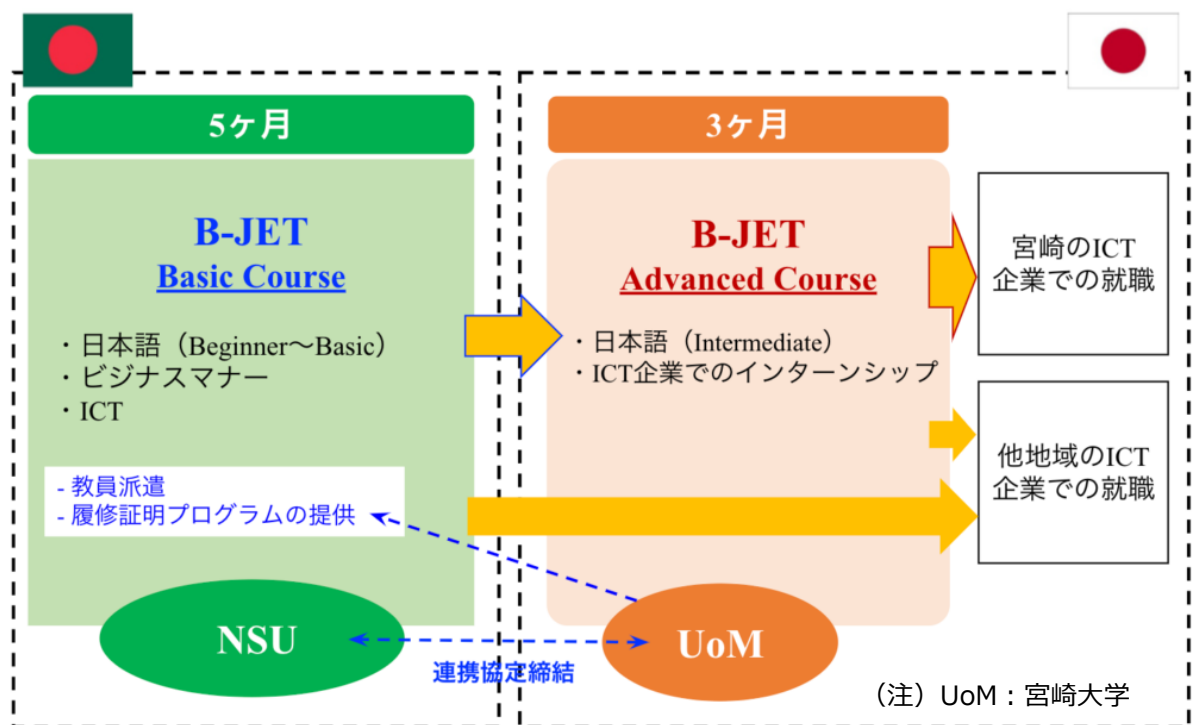
宮崎ーバングラデシュ・モデル



7 | 産官学連携プロジェクト紹介 B-JET (New)

- JICAのB-JETを引き継ぐ形で、ノース・サウス大学と宮崎大学が連携協定を結び、B-JET事業を産学連携プロジェクトとして継続している。
- 採用に関心のある企業を常に募集している。
- ホームページ : <https://bjjet-home.studio.site/1>

B-JET (New) の概念図

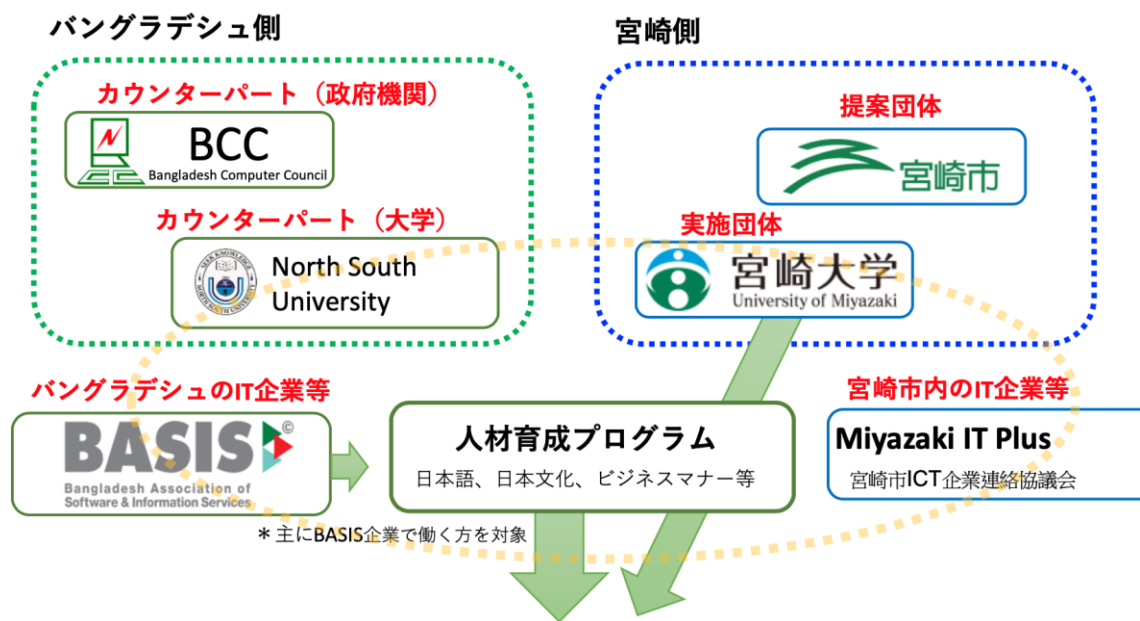


(出所) ICT for Development. JP (2022)

8 | 産官学連携プロジェクト紹介 B-MEET

- JICAの草の根技術協力事業として、現地のICTエンジニアへの日本との取引を見据えた日本語やビジネスマナー等の研修などを目的にB-MEET（Bangladesh-Miyazaki ICT Engineers Educational Training）を実施中。
- BASISとも連携しながら両国のビジネスの促進を目指す。

B-MEETの概念図



企業間交流、相手国－地域の循環（経済交流体制作り）

中長期的に**ヒト・モノ・カネ**の循環を目指す！

JETRO

VII. 考察とまとめ

1 | まとめ

日本との関係性

- デジタル人材が不足する日本において、特に若年層人口が多く親日的なバングラデシュとの連携は有望。
- バ国内の就職難と低賃金により、日本は魅力的な就職先の1つ。
- 日本はICT輸出先として第4位（シェア5%）。

デジタル人材に関する特徴

- 大規模な会社が少ない（従業員1,000人以上の会社は数社にとどまる）。
- オフショア開発の人件費は、ベトナムの0.5～0.7倍程度という相場感。
- ウォーターフォール型よりアジャイル型の開発に強みを持つ。
- フロントエンドよりバックエンドに強みを持つデジタル人材が多い。
- マネジメント層、ブリッジ・エンジニアなどはまだまだ足りていない。
- 最上位の国立大学卒は欧米を目指すことが多く、狙い目は大手私立大学や地方国立大学。
- 少数精鋭の国立大学（各学年のIT関連専攻が100人程度）と大規模な私立大学（各学年1,000人超え）が複数あるという構造。

採用に向けた留意事項

- 最大のネックは日本語。
- 日本では当たり前の福利厚生（安定した雇用、健康保険など）も十分魅力的な要素となる。
- 来日後に初任給が入るまでの生活立ち上げ等、コストや煩雑な事務手続きには、サポートが必要。
- コミュニケーション・スタイルの差に基づく誤解を生まないよう、密なコミュニケーションが重要。
- 相手の文化（宗教・考え方）を理解し、尊重することが重要。
- 就労条件（残業有無含め）は事前に話しておくことが重要。

キャリア志向

- 来日後は、長期間日本に滞在または定住する傾向にある。
- ただし、よりよい待遇・経験を求めて国内での転職ケースはあり、最新技術との接点など成長を感じられる環境・業務を用意することが重要。
- 将来的に両国をつなぐビジネスの起業を考える層もおり、今後の増加が期待される。

2 | 考察

- バングラデシュ国内外での賃金格差、親日感情、デジタル人材の人口規模といった点において、**バングラデシュのデジタル人材に日本で活躍してもらうというアプローチは有望**である。
- バングラデシュでの就職難と日本のデジタル人材不足を結びつけることで、日本のDX推進やビジネスの国際化に向けた重要なパートナーになりうる。
- 来日後には定住願望がある人材が多く、実際に日本に長期間滞在・定住しているケースも多く発生。
- 最大のネックは**日本語**である。バングラデシュのデジタル人材に日本語教育を行う事業は、公的機関・民間企業ともに複数ある。外国人を採用したことのない日本企業についても、自治体や採用企業などは様々なサポートを提供している（例：日本語の研修、自治体による採用費用補助（宮崎市）、採用支援、来日準備支援など）。
- 一方、日本語人材は限られており、英語での業務を可能とするだけで、採用のポテンシャル枠は拡大。

バングラデシュのデジタル人材を活用したオフショア開発や、日本勤務の採用などを検討・推進する日本企業が増えていくことで、両国の絆をより強固にし、経済発展のよきパートナーであり続けることが期待される。

JETRO

VIII. 参考文献

1 | 参考文献

- Asian Development Bank. (2019). Tracer Study Bangladesh: Computer and Software Engineering Tertiary Education in 2018. Asian Development Bank.
- Bangladesh Bureau of Statistics. 2022. Survey on ICT Use and Access by Individuals and Households 2022. Government of Bangladesh.
- BASIS. (2021). Foreign Exchange Manual 2021. BASIS.
- BASIS. (2023). BASIS Annual Report. BASIS.
- BASIS. (2024). BASIS Japan Desk. BASIS.
- BASIS Japan Desk. (2024). BASIS Japan Desk. <https://japandesk.basis.org.bd/content/b2b>. Accessed on 2024/2/14.
- GSMA. (2022). The Mobile Economy 2022. GSMA.
- ICT Division. (2023). Smart Bangladesh ICT Master Plan 2041. Government of Bangladesh.
- ICT for Development. JP. (2022). デジタル人材育成PJ「New B-JET」を追う（1. 枠組み編）. <https://ict4d.jp/2022/04/25/new-bjet/>. Accessed on 2024/2/14.
- ITPEC. (2024). 試験の統計情報. <https://itpec.org/jp/statsandresults/examination-statistics.html>. Accessed on 2024/2/14.
- JETRO. (2023). バングラデシュのITセクターとスタートアップの可能性. JETRO.
- Jony, S. S. R., Kano, T., Hayashi, R., Matsuda, N., & Rahman, M. S. (2022). An Exploratory Study of Online Job Portal Data of the ICT Sector in Bangladesh: Analysis, Recommendations and Preliminary Implications for ICT Curriculum Reform. *Education Sciences*, 12(7), 423.
- Kano, T., Sheikh, A. M., & Toyama, K. (2021). IT Career Aspirations in Bangladesh: A Trigger for Development? *Information Technology for Development*.
- MetaSource. (2020). The Best Country for Offshore Software Developers. <https://www.metasource.co/best-country-for-offshore-software-developers/> Accessed on 2024/2/14.
- Payoneer. (2023). Top 10 Freelancing Countries. <https://blog.payoneer.com/freelancers/top-10-freelancing-countries/>. Accessed on 2024/2/14.
- PopulationPyramid.Net. (2023). <https://www.populationpyramid.net/japan/2023/>. Accessed on 2024/2/14.
- Prime Minister's Office. (2009). Digital Bangladesh Concept Note. Government of Bangladesh.
- Hongo, J. (2014). Japan Ranks 40th of 48 Countries in TOEIC Scores. *Wall Street Journal*.
- World Bank. (2023). World Bank Data. <https://data.worldbank.org/>. Accessed on 2024/2/14.
- 宮崎大学. (2024). 宮崎ーバングラデシュICT人材育成事業 (B-MEET). <https://www.miyazaki-u.ac.jp/kokusai/mediafile/b-meet.pdf>. Accessed on 2024/2/14.

レポートをご覧いただいた後、 アンケートにご協力ください。 (所要時間：約1分)

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20230049>



レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部アジア大洋州課



03-3582-5179



ORF@jetro.go.jp



〒107-6006
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載